# きれいなまちを守る環境保健委員や学生ボランティアの活動

市長対談 ほっとTタイム

**本市には、環境美化・ごみの減量・分別収集まで、幅広い活動をしている環境保健委員や、清掃ボランティアに励む学生がいます。**
**今回号では、日頃から清掃活動に精力的に取り組む人たちをお招きし、きれいなまちづくりのための活動について高浜クリーンセンターでお話を伺います。**

## 世界に誇るビューティフルなまち・高崎

**市長**　今日は環境保健委員の皆さんのお仕事を紹介し、高崎の環境のために大変頑張っていただいている実情を知っていただこうと企画しました。天気の悪い日でも朝早くからごみ収集所を整理してくださる皆さんのおかげで、高崎のまちは清潔に保たれています。まちの発展の一番大事な要素を担っていただいていて、なくてはならない方々です。最近は高崎芸術劇場や高崎アリーナができて、世界のトップアーティストやアスリートが高崎を訪れるようになり、皆「高崎はビューティフルだ」と言います。路地に入ってもごみが落ちていないのは「想像できないほど素晴らしいことだ」と訪れた人たちが言ってくれています。これは皆さんの日々の活動があってのことだと、本当に頭が下がる思いです。安達さんのように女性の環境保健委員さんは珍しいのですか。

**富岡 賢治市長**
高齢者の安否確認も兼ねたごみ出しサービス「高齢者ごみ出しSOS」を市内全域に導入。環境保健委員と協働し、ごみのないきれいなまちづくりを目指している。

**安達**　あまり多くはないと思います。私の町内では初めてです。私は高崎生まれの高崎育ちで、高崎がとにかく好きなんです。景色も素晴らしいのですが、やはりまちが普段からきれいなので、少しでも活動に携われればいいなと思って委員になりました。

**市長**　環境保護に対してはみんな関心はあるけど、環境保健委員は下支えする活動なので、そういうことに携わろうと思える人はなかなか少ないと思います。

**安達**　そうですね。なり手不足や高齢化の問題はありますが、私のところでは美化活動に関心を持っている方がだいぶ増えてきて、積極的に協力してくれています。その人たちに話を聞いてみると、地元の人だけではなく、転勤で高崎に来た人も多いんです。まちがあまりにきれいだからちゃんとやらなくちゃって、若いお母さんたちも子どもに教えながらごみを分別してくれています。

**市長**　うれしいことですね。瀧川さんは藤塚町にお住まいですね。活動をする中でどんなことが大変ですか。

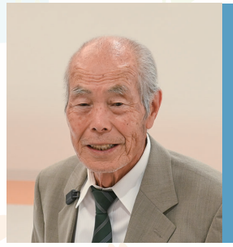
**瀧川**　毎朝のごみの分別が一番大変ですね。うちの地域は大きな工業団地があるので外国人の方もいたりして、ごみの出し方を周知するのが難しいと思うことがあります。以前、市の研修で外国人のコミュニティに入って指導すると効果があると聞いたので、参考にしながらよりよい共生のあり方を検討していこうと思っています。

**市長**　外国人の方たちも、ごみ出しのルールなどを自分の国から来た先輩に教えてもらっているようです。行政としても生活に必要な情報を知ってもらえるような体制を作らなくちゃいけないと思って、昨年4月に外国人相談センターを立ち上げました。

## 地域に根ざした美化活動の広がり

**市長**　湯浅さんは寺尾地区で、「たかさきアダプトまち美化活動」をやられていると聞きましたが、どんな取り組みをしているのですか。

**湯浅**　歩道に植栽がはみ出してしまい、小学生や自転車が通る時にすれ違いができずに危ないので、前の区長と相談してみんなで草刈りを始めたんです。それが広がって、今は小中学校の周りや城南大橋の歩道など、5か所で草刈りをやっています。



**湯浅 桓（いさむ）さん**
寺尾町第一環境保健委員。自分の住むまちをもっときれいにしたいという気持ちから、令和２年に「たかさきアダプトまち美化活動事業」を開始。地域の除草・清掃作業の中心人物として活躍している。

**市長**　湯浅さんたちのおかげで、安心して通行できるようになりますね。年間にどのくらい活動をしているのですか。

**湯浅**　草木の伸びる時期を中心に年6回ほど、毎回25 人くらいの人が協力してくれています。参加者はお年寄りが多く、作業しながら話もできるし運動にもなると喜ばれているので、この活動はずっと続けていきたいと思っています。

**市長**　高崎はすごいんですよ。高崎まつりの翌日はごみが1つも落ちていなくて、たくさんの人から考えられないとよく言われますよ。学生や地元企業が進んで片付けてくれているので、このことだけは今後も残して絶対崩さないでほしいとお願いしているんです。若い学生の方もまちをきれいにしてくれているんですよね。

**内田**　私はIVUSA（イビューサ）に所属していて、地域の環境美化を目的に、高崎清掃活動として月に4回程度、和田橋の下や高崎経済大学の近くなどのごみ拾いをしています。

**市長**　高崎の大学生は県外出身者が多いと聞きます。内田さんも長野県出身でしたね。そういう学生が高崎のまちをきれいにしたいと思って、活動してくれていることはとてもうれしいことです。清掃活動は大変でしょう。

**内田**　私たちの団体は経大生25人くらいと県内の大学生とで一緒に活動しているので、普段は25人から30人くらいでごみ拾いをしています。飲み物のごみが多くて、集めたごみを洗ってから分別するのはとても大変です。

**市長**　ごみを捨てる人に、代わりに拾ってくれる人がいることを知ってほしいですね。活動する上で目標はありますか。

**内田**　私たちの活動のモットーは「拾う心より捨てない心」で、ごみ拾いをするということよりも捨てないという気持ちを広げていきたいという思いで活動しています。地域の子どもたちも一緒にごみ拾いをしてくれているのですが、この考え方が根付いてくれたらうれしいです。

**内田 舞歩（まほ）さん**
高崎経済大学３年。高校時代からボランティア活動を始め、現在は NPO 法人国際ボランティア学生協会（IVUSA（イビューサ））群馬高崎クラブに所属。地域と連携して、清掃活動などを行っている。

**安達 みゆきさん**
四ツ屋町環境保健委員。ごみステーションでの声かけなど、分別ルールの啓発に努めている。市の環境審議会委員も務め、高崎の自然や人への愛着心から、日々高崎市のために活動している。

**瀧川 修二さん**
藤塚町環境保健委員。令和２年から環境保健協議会副会長に就任し、きれいなまちづくりを推進。鳥による食品ごみの散乱被害を防ぐなど、長年地域の人と美化活動に取り組んでいる。

## ごみ捨てマナー向上のための取り組み

**市長**　ごみ出しのマナーが悪い人が多いと聞いて、いろんな収集場所に見守りカメラを設置しました。付ける前と比べて変化はありましたか。

**湯浅**　私のところでは「カメラ作動中」の看板を付けています。看板ごと捨てられてしまうこともありましたが、根気強く続けていたら、今ではごみ出しマナーが良くなり、きれいに利用してもらえるようになりました。

**瀧川**　私たちの地域では、マナー向上の取り組みとして、ごみ出しのルールを写真付きで分かりやすくしたチラシを回覧板で周知しています。その他には、マナーの向上と併せて鳥のいたずらからごみを守る取り組みもしています。

**安達**　私はごみステーションで声かけをしています。コミュニケーションって大切で、立ち話をしたり、ただあいさつをしたりするだけでも意識が変わってきれいにごみ出しをしてもらえるようになりました。

## 安心な暮らしのための見守りと支え合い

**市長**　市では分別やごみ出しが大変な高齢者のために「高齢者ごみ出しSOS」という見守りと安否確認を兼ねたごみ収集をやっていて、利用者の数は始めた時から約4倍に増えています。3年前からは、粗大ごみなどの重い物を動かすお手伝いをする「高齢者力（チカラ）しごとSOS」も始めました。

**瀧川**　家まで回収しに来てくれるSOS の仕組みはとても素晴らしいですよね。高崎市は高齢者に寄り添った取り組みをしてくれるのでとてもありがたいです。

**市長**　そう言ってもらえるとすごくうれしいですね。制度を作った甲斐（かい）があります。まちの発展に1番大事なのは環境だと思っています。美しいまちが維持できているのも、環境保健委員の皆さんや学生ボランティアの方々の協力があってこそだと大変ありがたく思います。本日はありがとうございました。

**一同**　ありがとうございました。

対談の様子を動画でご覧いただけます